隊員と家族をつなぐ 家族会ほっとライン

自衛官の人的基盤強化③

令和6年12月20日に発表された「自衛官の処遇・生活環境の改善及び新たな生涯設計の確立に関する基本方針」。第3回は、生活・勤務環境の改善について紹介します。

若い世代のライフスタイルに合った生活・勤務環境の構築

基本方針では「自衛隊という組織全体のパフォーマンスを向上していくに当たっては、やりがいと働きやすさの双方を向上し、自衛官一人ひとりが働きがいを感じられる環境を構築していくことが不可欠である」としています。

また「真に国民の期待に応えられる組織とするためには、自衛隊の組織文化そのものについても、良いところは残しつつ、時代の変化に合わせて変えていく必要がある。自衛隊は、若い世代も含め、隊員一人ひとりが自己効力感を感じられる組織への変革を進めていく」として「組織文化の改革」「営舎内居室の個室化等」「艦艇乗組員の生活・勤務環境の改善」「宿舎環境の改善」「通信環境の整備の推進」「公共交通機関が少ない基地・駐屯地等へのアクセス改善」について述べています。

組織文化の改革

「自衛隊が現在顕在化する新たな戦い方に対応していくに当たっては、質の高い、多様な人材を獲得し続ける必要がある。

また、一般社会における労働に対する考え方が変化・多様化し、特に若い世代においてワークライフバランスを重視した働き方や、自らの達成感や成長感といった精神的充実が得られる職場を選好するようになっている」としています。

①組織文化の改革

- 現代に相応しいリーダーシップを身につけた自衛官を養成
- 心理的安全性やエンゲージメントの高い組織作りを推進

そして「現代に相応しいリーダーシップを身に着けた自衛官を養成し、特に異世代のマネジメントに必要なスキルに焦点を当てて、自衛隊のマネジメントに必要な能力の見直しや教育を強力に推進する」、また「自衛隊が組織として目指す方向を明文化し、心理的安全性や自衛官一人ひとりのエンゲージメントの高い組織づくりを推進する」として「こうした取組を推進することにより、人の組織である自衛隊としてハラスメントを許容しない環境を構築していく」としています。

営舎内居室の個室化等

「曹長以下の自衛官は、原則、営舎内居住が義務づけられているところ、私生活との両立の観点から、営舎外に居住できる者の範囲を見直す。

その際、自衛隊の任務遂行に当たっては集団行動も求められることから、隊員一人ひとりの関係が希薄なものにならないよう留意するとともに、隊員が基本的な集団行動について習得する機会は確保する」とのことです。

②営舎内居室の個室化等

- 私生活との両立の観点から、営舎内居室の個室化をスピード感をもって計画的に進め、早期完了。営舎外に居住できる者の範囲の見直し

また、近年の若い世代の傾向を踏まえ、営舎内においても、プライバシーが配慮された生活環境を構築できるよう、営舎内居室の個室化についてスピード感をもって計画的に進めることにより、早期完了を目指す。

艦艇乗組員の生活・勤務環境の改善

「艦艇の乗組員は艦艇への居住が義務づけられているところ、艦艇内の居住区は特に狭く、プライバシーが確保されておらず、航海中の精神的負担が大きいことから、新型艦の居住区の魅力化や乗員待機所の拡充など艦艇乗組員の生活・勤務環境の改善を行う」としています。

③艦艇乗組員の生活・勤務環境の改善

- 新型艦の居住区の魅力化や乗員待機所の拡充

仕事と育児・介護の両立および女性活躍の推進

「社会構造の変化により、自衛官も男女ともに育児・介護などのため時間や異動に制約のある者が増加することが想定される。このため、自衛官の勤務の特殊性や社会全体における保育に係る需給バランスの変化に配慮した託児事業の充実など、自衛官が育児・介護との両立に不安を抱くことなく、任務に専念できる環境の整備を推進する。

また、女性の採用・登用を拡大していくため、教育基盤の整備や隊舎などにおける女性用区画、女性用トイレや浴場等の整備をスピード感をもって計画的に推進する」とのことです。

なお、その他の施策は左上の表の通りです。

④宿舎環境の改善

- 宿舎の改修やPFIによる建替え等をスピード感をもって計画的に推進
- 住宅設備の充実及び生活の利便性と即応性との調和に留意した取組を推進

⑤通信環境の整備の推進

- 駐屯地・基地等の厚生棟及び生活隊舎の共用区画等における無線LAN環境の拡充
- 令和9年度までに主要艦艇において、商用低軌道衛星通信網を活用し、インターネットの閲覧等を可能とする通信環境を構築

⑥公共交通機関が少ない基地等アクセス改善

- バスのチャーター便やカーシェアリングを拡充

⑦仕事と育児・介護の両立、女性活躍推進

- 託児事業の充実など、育児・介護との両立に不安を抱くことなく任務に専念できる環境を整備
- 女性用区画、女性用トイレ・浴場等の整備をスピード感をもって計画的に推進

⑧被服・糧食及び健康管理体制の充実

- 被服等の整備・更新、定数の増加、仕様の改善
- 糧食の魅力化、物価上昇に係る経費の適切な反映
- 隊員の健康状態把握のための器材整備など健康管理体制の充実

——海自の観点からのポイントについて教えてください。

◇　◇

今回の基本方針は、海自の勤務環境の特殊性にも非常に配慮されたものです。

艦艇の狭隘（きょうあい）かつプライバシーが低い居住空間は若い隊員が乗組を忌避する要因でしたが、新型艦にはプライバシーを確保できる個室型寝台が導入されるほか、母港に停泊中に個室で十分な休養が取れるよう乗員待機所が拡充されるなど、居住環境が大きく改善されます。通信が届かないことも艦艇乗組の忌避につながっていましたが、今後、洋上でインターネットが使えるようになることも大きなポイントです。

一方、海上自衛隊員の半数以上は陸上勤務であり、営舎内居室の完全個室化も重要です。今後建て替えされる海自の隊舎には各室にユニットバスが設置されるほか、建て替え予定がない隊舎においてもパーテーションによる個室化により、一般社会と遜色のない居住環境になります。

生活・勤務環境が改善されることで、募集のみならず現役隊員の離職防止にも大きな効果があるものと期待しています。

海上幕僚監部人事計画課長・佐瀬智之1等海佐にお聞きしました。

続・北から南まで全国各地で入隊・入校式

函館（北海道）

自衛官候補生課程入隊式
自衛官候補生としての飛躍のスタート

4月5日、陸上自衛隊第28普通科連隊（連隊長・廣山俊一1等陸佐）教育隊は函館駐屯地で自衛官候補生課程入隊式を挙行しました。

本行事は自衛官候補生の入隊を祝うとともに、自衛官としての自覚を促し、課程教育に向けた意欲を高めることを目的としています。

式には、八雲町・田中智貴町長代理、道南地区自衛官志願推進協議会・高橋征二副会長、道南自衛隊家族会・杉本幹雄会長、函館地方隊友会・笹森時太郎会長、有斗高等学校・小高亮校長、柏陵高等学校・扇柳尚英校長をはじめ、多くの来賓および自衛官候補生の家族が出席し、門出を祝いました。

候補生たちは緊張した面持ちながらも、自衛官となる覚悟と誇りを持ち、力強く申告と服務の宣誓を行いました。

連隊長による式辞では、祝福の言葉に加えて「日々前進」「仲間を大切に」と

来賓、ご家族と共に記念撮影

の要望が伝えられ、候補生たちはその言葉を胸に刻みました。

入隊した候補生20人は、これから約3カ月間、さまざまな訓練や困難を乗り越えながら、一人前の自衛官を目指して成長を続けていきます。

大津（滋賀県）

新たな一歩を踏み出す若き力
約320人の候補生が決意を胸に教育訓練へ

4月8日、陸上自衛隊第109教育大隊（大隊長・本田成弘2等陸佐）は、第24期一般陸曹候補生課程前期の入隊式を挙行しました。

式において本田大隊長は「失敗を恐れず、何事にも元気よく、積極的に取り組んでほしい」と訓示。約3カ月にわたる教育訓練を通じて、陸曹となる前の土台をしっかりと築いてもらいたいと激励しました。また「全員が無事に修了式に集い、部隊で胸を張って活躍する姿を期待している」と述べ、候補生たちにエールを送りました。

入隊式では、中部方面音楽隊の協力により、開式前に激励演奏が行われ、候補生たちの士気を大いに高めました。さらに、国歌斉唱では、第22期課程を修了した濱野士長が独唱を務め、清らかで凛とした歌声が会場に響き渡り、厳粛な雰囲気を一層引き立てました。

この日、入隊式に臨んだのは約320人の候補生（男性約260人、女性約60人）。真新しい紫紺色の制服に身を包み、緊張した面持ちで式典に参加しました。来賓、ご家族らが見守る中、代表者による力強い申告、全員による宣誓が行われ、候補生たちは自らの言葉をかみしめながら、新たな一歩を踏み出しました。

代表者による力強い申告

練馬（東京都）

若き決意、国を守る覚悟胸に
入隊式を晴れやかに挙行

陸上自衛隊第1師団（師団長・鳥海誠司陸将）では、この春、新たに採用された自衛官候補生の入隊式が、第1普通科連隊（練馬）、第32普通科連隊（大宮）、第34普通科連隊（板妻）の各部隊で挙行されました。

4月5日に実施された各入隊式には、18歳から32歳までの約150人の候補生が参加しました。

式では、新たに入隊した候補生たちが整列し、号令に従って規律正しく動作する姿に、ご家族の多くが感激し、誇らしげに見守る様子が見られました。真新しい制服に身を包んだ子供たちの姿を写真に収める、ご家族の笑顔が会場を温かく包みました。

新隊員たちはこの日、平和と独立を守るという強い覚悟を胸に「服務の宣誓」に臨みました。「専心自衛官として必要な知識および技能の修得に励むことを誓います」と力強く宣誓する姿には、彼らの真剣な思いと責任感がにじんでおり、宣誓後の表情には自衛官としての自覚と使命感が見て取れました。

式後には「今日この日から自衛官になっていくという強い実感が湧きました」と語る新隊員の目に、強い意志が宿っていました。

会場には多くの家族や友人が駆けつけ、カメラを手に晴れ姿を撮影する姿があちこちで見られました。特に印象的だったのは、制服姿のわが子を見て思わず涙ぐむ親の姿と、それに照れながらも笑顔で応える新隊員の姿です。「まだ子供だと思っていましたが、制服姿を見て将来が楽しみになりました」と語る母親の姿もありました。

新隊員の一人は「令和元年の台風19号で洪水が発生した際、災害派遣で活動する陸上自衛官の姿を見て、自衛官を志しました。自分もいつか、災害派遣などで活躍できる自衛官になりたいです」と、力強く抱負を語ってくれました。

今後、候補生たちは約3カ月間の基礎教育を通じて、自衛官として必要な知識や技術を学び、体力づくりや射撃訓練などに励みます。その後、自衛官（2等陸士）に任命され、全国の駐屯地で専門教育を受けたのち、9月末には各部隊へ配属され、真の自衛官としての一歩を踏み出していきます。

「決意の言葉」

青野原（兵庫県）

自衛官候補生課程入隊式を挙行
同期とともに、目的を胸に挑む第一歩

4月12日、陸上自衛隊第8高射特科群（群長・小林憲治1等陸佐）は、駐屯地体育館において「令和7年度自衛官候補生課程教育入隊式」を挙行しました。

当日は、近隣市の市長をはじめ、地元家族会会長や各防衛協会会長など多くの来賓が参列し、希望に満ちた自衛官候補生たちの門出を温かく見守りました。

ご家族の見守る中で行われた宣誓では、候補生の力強い声が会場に響き渡り、その決意の強さが伝わる感動的な場面となりました。

小林群長は式辞の中で「教育で学ぶそれぞれの課目の目的を理解し、失敗を恐れず挑戦してほしい」と激励。さらに「同期との絆を大切にし、助けられる側から助ける側へと成長してほしい」と述べ、候補生たちの成長と活躍に大きな期待を寄せました。

式典後は、ご家族を対象とした営内居室などの生活・勤務環境の見学と、隊員食堂での会食が行われました。式中は緊張していた候補生たちも、ご家族との再会では安堵の笑顔を見せていました。

候補生たちは、自衛官としての基礎を学びながら、仲間とともに支え合い、高め合う3カ月間の教育課程に向けて、確かな一歩を踏み出しました。

力強く宣誓をする自衛官候補生

松山（愛媛県）

第24期一般陸曹候補生入隊式
桜花の下、新たな決意を胸に

4月6日、陸上自衛隊第110教育大隊（大隊長・廣瀬公洋2等陸佐）は、桜花爛漫の松山市民会館において第24期一般陸曹候補生の入隊式を挙行しました。

新隊員183人は、不安と緊張を抱きながらも、多くの来賓やご家族に見守られる中、力強く服務の宣誓を行い、その決意を会場いっぱいに響かせました。

式辞で大隊長は「皆が団結し、試練を乗り越え、いかなる任務も達成できる陸上自衛官に成長することを期待します」と激励の言葉を述べました。

また、新隊員代表の山口2等陸士は「同期と協力し、助け合い、励まし合いながら、日々目標に立ち向かっていきます」と力強く抱負を語りました。

これからの約3カ月間、新隊員たちは同期との絆を深めながら、互いに切磋琢磨し、厳しい訓練に励んでいきます。

力強く抱負を語る山口2士

入間市（埼玉県）

入間基地と家族支援協定を締結
空自隊員家族の支援体制強化へ

5月19日、埼玉県自衛隊家族会は、航空自衛隊入間基地において、入間基地、埼玉県隊友会、航空自衛隊退職者団体「入間つばさ会」とともに「隊員家族の支援に対する協力に関する協定書」を締結しました。

協定締結式には、入間基地司令の杉山公俊空将補、家族会の斎須勝位会長、埼玉県隊友会の大音師忠夫事務局長、入間つばさ会の武藤茂樹会長が出席し、協定書に署名しました。

杉山司令は「この協定は入間基地所属部隊と隊員にとって極めて意義深い。有事や災害派遣などで家を離れる隊員にとって、留守家族を見守る支援者の存在は心強く、関係者の皆さまに深く感謝申し上げる」と述べました。

続いて、斎須会長は「長年の検討がようやく実を結び、隊員家族などで構成される自衛隊家族会を代表し、心より感謝申し上げます」とあいさつしました。

埼玉県内では、陸上自衛隊朝霞・大宮駐屯地で同様の協定が締結済みですが、空自隊員を対象とする協定は今回が初めてです。今年3月には防衛省でも全隊員を対象とした協定が結ばれており、今回の協定は全国的な支援体制強化の一環としても意義深いものです。

協定締結式記念写真（入間基地提供）

あいさつする斎須会長

入間基地は、約4400人が勤務する空自最大規模の基地であり、首都圏唯一の空自飛行場を有します。

今後発生が懸念される首都直下型地震では、災害派遣拠点として重要な役割を担う一方、基地周辺でも最大震度6強の揺れが予測されており、隊員家族の被災も現実的な課題です。

入間市自衛隊家族会は小規模な地区会であり、単独での対応は難しいものの、隊友会や入間つばさ会などと連携し、地域の中でできる限りの支援を担っていきたいと考えています。

（入間市自衛隊家族会　事務局長　小澤　和仁）

青森県

自衛隊家族会、派遣隊員を激励
海賊対処任務でソマリア沖へ

5月12日、青森県自衛隊家族会（野呂和生会長）は、海上自衛隊第2航空群を基幹とする「第57次派遣海賊対処行動航空隊」の出国行事に出席し、同隊員らの見送りを行いました。

この部隊は、アフリカ東部のソマリア沖・アデン湾において、約5カ月間にわたり海賊対処任務にあたるために派遣されるものです。

今回派遣されるのは、松本光一2等海佐を司令とする55人の隊員と、P－3C哨戒機1機です。彼らは現地での不審船の警戒や情報収集活動を通じて、国際社会の安全保障に貢献します。

出国行事が行われた海上自衛隊八戸航空基地には、赤岩英明群司令をはじめ、関係者やご家族、来賓ら約240人が集まりました。

式では、大町克士自衛艦隊司令官のメッセージが代読され「国際情勢がますます混迷を深める中、一丸となって任務に臨んでほしい」との激励の言葉が伝えられました。

青森県自衛隊家族会の野呂会長は、この出国行事に参加し、現地に向かう隊員一人一人に対し、深い感謝と敬意を表するとともに、安全と任務達成を祈念して見送りを行いました。

また、5月9日には、派遣隊員への（公社）自衛隊家族会からの激励品を隊司令の松本2等海佐に直接手渡しました。これには、長期にわたり家族と離れて任務にあたる隊員へのねぎらいと応援の気持ちが込められています。

なお、松本2佐は今回が2回目の派遣となります。出発にあたり、今回のモットーとして「自他共栄」の言葉を掲げています。これは柔道家・嘉納治五郎の道徳的規範であり「自己の完成をもって世に補益する」ことを意味するものです。

松本2佐は「この派遣を完璧に遂行し、もって世界平和に貢献したい」と力強く語っていました。

出発当日の5月12日には、先遣隊としてP－3C哨戒機が出発。残る隊員たちは5月14日、青森空港から民間機でソマリア沖の任務拠点となるジブチ共和国へと向かいました。

青森県自衛隊家族会は今後も引き続き、任務に臨む隊員とそのご家族を支え、安心して任務に集中できるよう支援活動を続けてまいります。

（青森県自衛隊家族会　会長　野呂　和生）

松本隊司令に激励品を手交

海自八戸基地での出国行事

〈編集後記〉

▽硫黄島における天皇皇后両陛下の行幸啓の支援と硫黄島における慰霊行事。4面に記事を掲載しました。ご一読ください。

▽6面に自衛官とともにある即応予備自衛官の所感を掲載。その気概について触れてみてください。

▽8面、埼玉県家族会が県内で空自とは初となる入間基地との支援協定を締結。今後の展開に期待。